



議会だより

でいすかす

131号

発行：登別市議会／編集：広聴・公開委員会／発行日：2026.5.1

登別市議会

で

検索



または



市議会ウェブサイトやフェイスブックページで、議会の活動や各種情報をご覧ください



いじめ反対の思いが広がる ピンクシャツデー

ピンクシャツデーは、2007年にカナダで起きた出来事をきっかけに、子どもたちの、いじめをなくしたい、いじめはおかしい、という声に多くの人が共感したことから始まりました。

登別市では高校生が中心となって実行委員会を立ち上げ、児童生徒が自ら考え行動する取り組みを大切にしながら市教育委員会が見守り、支えてきました。

市議会でも表敬訪問を受け、取り組みへの理解を深めるとともに、2月17日の本会議では、全議員および執行部がピンク色のシャツを着用し、いじめに反対する気持ちや思いを一つにしました。

この取り組みは誰もが安心して暮らせるまちづくりにつながる大切な一歩となり、これからも市民の皆さんとともにこの思いを応援し、広げていきます。

(千田)

目次

委員会だより	②ページ
一般質問	③～⑤ページ
補正予算審査、その他	⑥ページ

令和8年第1回定例会における 議案の賛否状況

第1回定例会で上程された議案はすべて可決されました。

重点活動テーマに沿った視察を実施 総務・教育委員会

図書館が商業施設に併設されている大分県日出町と、令和3年にキャリア教育に関して文部科学大臣表彰を受けた福岡県飯塚市を視察しました。

日出町では、ショッピングセンターの2階に図書館を設置することににより書籍の貸出数が旧図書館の3倍となったことや図書館内でコンサートを開催するなどの先進的な取り組みについて、理解を深めました。

飯塚市では、飯塚市立小中一貫校幸袋校の課題解決型学習を中心に9年間を見通した取り組みを学びました。

これらの内容は、登別市の教育への取り組みとして参考となりました。
(戸井)



子どもや若者の声が届くまちへ 生活・福祉委員会

生活・福祉委員会では、子どもや若者の声が届く社会の実現に向けた取り組みを進めています。

令和7年度は、子どもの権利条例の制定に向け、4市の視察を行ったほか、議会サポーターや議会フォーラムで市民の皆さまと意見交換を行いました。

また、学生と関係する大人が参加し、子どもの権利について学びながら条例制定に向けた意見交換を行うワーキンググループであるワカモノ会議を立ち上げました。

令和8年度は、ワカモノ会議を中心とした意見交換や団体との対話を進め、市民の意見を踏まえた子ども

の権利条例の制定に向けて取り組みを進めます。
(宮武)



熊本市・阿蘇市への先進地視察 観光・経済委員会

観光振興の将来像を探るため、令和7年度は熊本市と阿蘇市を視察しました。

熊本市では、観光マーケティング戦略に基づく世界に選ばれた観光地づくりや、訪れる人に優しい滞在環境の整備、地域の強みを生かした誘客戦略などの実践的な取り組みを学びました。

阿蘇市では、通過型から滞在型への転換や多言語対応、二次交通の充実、老朽化施設への対応、人材確保など、受け入れ環境の強化に向けた取り組みを学びました。

地震やコロナ禍を乗り越えた強靱な観光地づくりの姿勢も大きな示唆となりました。

令和8年度は、これらの学びを登別の観光政策に生かし、地域の魅力向上に努めます。
(工藤)



市民の声を力に、開かれた議会へ 広聴・公開委員会

令和7年度は、第18回議会フォーラムを開催し、各委員会のテーマに沿って活発に意見交換が行われました。

郷土愛を育む教育、若者の声が届く仕組み、域内循環を高める取り組みなど、登別の未来を見据えた前向きな提案が数多く寄せられ、市民の皆さまがまごづくりに主体的に関わろうとする姿勢を強く感じました。

寄せられた意見は各委員会の政策提言に確実に引き継ぎ、市政への反映を図ります。

令和8年度は、対話を積み重ね、世代を超えて意見が届く環境づくりを進めるとともに、議

会の役割や取り組みを分かりやすく発信し、身近で開かれた議会の実現を目指します。
(成田)



議員報酬の在り方協議を継続中 議会運営委員会

議長諮問である議員報酬の在り方について継続的に協議を行っています。

2月10日には市民の皆さまとの意見交換会を開催し、報酬引き上げに対する慎重な意見や議論の進め方への指摘が寄せられました。

これを受け、より多くの市民意見を踏まえた丁寧な議論が必要と判断し、協議期間を延長することとしました。

委員の意思統一を図りながら、令和9年3月を目標に方向性を整理する方針としております。

さらに、再度の意見交換の機会も検討し、説明責任を果たし

ながら市民理解の醸成に努めるとともに、透明性の高い議論を重ねてまいります。
(今野)



20年後、この議事録を読み返す将来世代に対し、説明可能な判断を行ったと言えるのか、今後、基金取り崩しが続く中、物価上昇を織り込んだ長期財政シナリオや到達目標、判断基準は整備されているのか、将来世代への責任



今野議員の
一般質問
中継はこちら

図書館政策を契機に
将来世代への説明責任を
今野幹大

令和8年第1回定例会 一般質問

[令和8年3月2日(月)～3月5日(木)]

議員11名が市政を問う



▲ミラプロTシャツを着用した本会議最終日

という観点から、善管注意義務を踏まえた制度設計が必要ではないか、この思いから質問をしました。

答 大型公共施設における判断基準や意思形成過程、市民関与、議会連携や制度化については、現時点では困難と認識しているが、理想としては必要であると考えている。

今後は、本件を契機に透明性のあるルール設定や情報公開を進め、根拠ある合意形成に努めていく。

問 大型公共施設における判断基準や意思形成過程、市民関与、議会連携や制度化については、現時点では困難と認識しているが、理想としては必要であると考えている。

答 本市における令和6年度の小中学校学年別のいじめ認知件数は、

問 小学校は、1年生141件、2年生123件、3年生174件、4年生139件、5年生107件、6年生91件、中学校は、1年生29件、2年生13件、3年生18件となつ



足立議員の
一般質問
中継はこちら

いじめゼロへ向けて
足立知也

問 市立図書館の今後の在り方に関する方針では、市立図書館の建設に向けた取り組みと同時進行でアーニスへの移転を推進する考えが示されているが、どのような考えで市立図書館の建設とアーニスへの移転を同時進行で進める



佐々木議員の
一般質問
中継はこちら

登別市立図書館の今後の在り方に関する方針は
佐々木久美子

答 早い段階から思いやりや規範意識を育む取り組みが重要であることから、教育活動全般を通じて、人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成に

問 文部科学省が公表している令和6年度の調査結果では、小学2年生のいじめ認知件数が最も多くなっているなど、全国的に小学校低学年のいじめ認知件数が増加している傾向を考えると、小学校低学年からのいじめ防止対策を強化するべきではないか

答 早い段階から思いやりや規範意識を育む取り組みが重要であることから、教育活動全般を通じて、人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成に

問 具体的なスケジュールは。

答 令和16年度に基本構想の策定、令和20年度に基本計画の策定、令和21年度から22年度にかけて基本・実施設計を行い、令和23年度に本事業に着手、その後、準備作業を経て、最速で令和25年度に新市立図書館の供用を開始するスケジュールを想定している。

答 アーニスへの移転を速やかに進め、現市立図書館が抱える課題に対応し、アーニス移転後の運用状況や課題を検証した結果を新市立図書館建設に向けた議論に生かすことを想定したものである。

教職員の休憩時間は確保されているのか

井野正臣



井野議員の一般質問
中継はこちら

質 休憩時間について、全国的にも休憩時間を仕事に割かなければならない教職員が多く存在している実態がある。勤務時間については、公務支援システムで管理できるが、休憩時間については、働いていた状況が把握できない。

れば実労働時間の実態が分からなくなる。

これについて、市教育委員会としての対応は。

答 公務支援システムの仕様上、休憩時間の実態を詳細に把握するのは困難である。

管理職が教職員一人ひとりの業務状況を把握し、児童生徒や保護者への突発的な対応などで休憩が取れていない教職員に対しては、速やかに別の時間帯への振り替えを促すなど積極的な声掛けを行うよう校長会などを通じて働きかけていく。

未来の登別をつくる人材の育成を

戸井肇



戸井議員の一般質問
中継はこちら

ふるさとキャリア教育の現状とブラッシュアップの取り組みについて質問しました。

質 持続可能な地域づくりに向けた人材育成という目標が掲げられているが、どのように系統的かつ連続性を持たせて

て取り組んでいくのか。

答 小学校では、温泉入浴体験と併せて地獄谷や施設見学を実施するほか、公共施設や工場、キウシト湿原を訪問し、地域資源を学ぶ機会を設けている。

これにより醸成されたふるさと登別への愛着心を基礎に中学校での職業体験学習を通じて、地域で働くことの意味や喜びの醸成を図るとともに教育ふれあいDAYなどにおいて、これらの取り組みについて発表を行っている。

児童生徒の発達段階などに応じ、系統的かつ連続性を持って、今後においても地域づくりに向けた人材育成に引き続き取り組んでいく。

公共施設にネーミングライツの導入はいかに

工藤俱二雄



工藤議員の一般質問
中継はこちら

質 ネーミングライツ（施設に愛称などを付ける権利）を導入するに当たり、想定される対象施設などについての考えは。

多くの市民に利用されている施設が民間事業者にとって広告媒体としての価値が期待できるものと捉えており、そのような施設を中心に検討している。

また、施設の特性や利用状況を踏まえ、より効果的な導入が図れるか併せて見極めていく考えである。

さらに、対象施設は行政からの発案だけでなく、民間事業者からの提案により追加できる仕組みについても検討している。

これにより、民間事業者のアイデアやニーズを幅広く受け止め、導入の可能性を広げていくよう努めていく。

スポーツ活動の場

宮武祥子



宮武議員の一般質問
中継はこちら

質 小中学校の統廃合に伴い、利用しなくなった体育館を地域スポーツの拠点として活用する考えは。

答 体育館を含む学校施設の活用は、利用状況や市民のニーズ、維持管理経費などを踏まえ、庁内で連携しながら

幅広く検討する。

質 学校開放事業における運用見直しの考えは。

答 施設の減少により活動場所の確保が課題となる場合には、学校開放事業など既存施設の有効活用を検討する。

また、他自治体で実施している夜間2部制開放などの事例も参考に、調査研究を進める。

質 総合体育館のさらなる有効活用についての考えは。

答 現在の午前、午後、夜間の3区分運用を見直し、時間区分の細分化などにより、多くの方が利用できるよう検討する。

**登別駅前エリア全体の
にぎわい創出戦略は**



成田議員の
一般質問
中継はこちら

質 旧登別市婦人センター跡地の活用について、市としての判断基準や方向性が示されていないが、どのような事業者像・事業内容を期待するのか、併せて、この跡地を駅前エリア全体にぎわい戦略の中でどう位置づけ、駅前

や道道登別停車場線整備とどう連動させ、相乗効果を生み出すのか。

答 婦人センター跡地は地域経済の活性化に資する利活用が望ましいとの意見が多く、その方向で周知してきた。

今後の公募に向けて判断基準を示し、地域に根づく商店会と連携する施設を期待するとともに、将来的には観光客の目的地となり、駅や道道登別停車場線、登別マリンパークニクスを結ぶ新たな回遊が生まれる可能性に言及した。

跡地活用は戦略の核であり、市は明確な基準と方向性を示し、相乗効果を生む戦略的な活用を進めるべきと求めました。

**給食センターは室蘭市と
共同で行うのか**



若木議員の
一般質問
中継はこちら

質 室蘭市と交わした学校給食センターの広域設置に係る合意書について、法的な有効性はあるのか。

また、共同設置の変更協議については、本市が持ちかけたことであるため、明確な提案をすべきではないのか。

合意書の記載事項に固執すれば協議の膠着化が懸念されるが、見解は。

答 法的な有効性については、合意書の記載内容を踏まえ、専門家の意見などを伺った上で慎重に判断する必要があると考えている。

教育委員会としても協議の膠着化は好ましくないものと認識しており、早急に妥協点などについて協議を進めていく考えである。

質 変更協議の期限を定めないといつまでも平行線をたどるのではないかと。

答 いつという期限は申せないが、まずは事務レベルで話を進め、ゴールを見いだしながら協議を進めていきたい。

**道の駅設置、
宿泊税導入の考えは**



岩田議員の
一般質問
中継はこちら

質 道の駅設置に関する本市の現状と課題は。

答 運営のノウハウ確保や現在の財政状況、財源確保が大きな課題である。

質 幌別東小学校跡地やグラウンド、体育館を活用する考えは。

答 サウンディング型市場調査では応募がなく、継続して検討している。

質 道の駅が政策手段となる可能性は。

答 各省庁の支援メニューで道の駅を整備できれば、本市の課題などの解消につながる可能性があると考えている。

質 本市の宿泊税導入の考えは。

答 現時点では宿泊税導入は考えていないが、自主財源を確保する上で有効な手法の一つと考えている。

市長個人としては、道の駅を造りたい、との発言があり、全市観光を踏まえ、道の駅設置や宿泊税導入、財源確保の挑戦を未来のために取り組むよう提言しました。

**交流から共生の
時代に向けて**



辻議員の
一般質問
中継はこちら

質 近年、外国人住民が急増し、若年人口に占める割合は女性が約6・7%、男性が約4・9%となっている。

今後、育成就労制度が開始することにより、実質的な定住化が進むことも予想されることから、人口動態や出身

国の文化、価値観を踏まえた多文化共生政策を推進していくべきではないか。

答 新年度早々に課題共有・施策検討を行う横断会議を設置する。

また、登別中学校区での外国人住民や民泊などの急増を受けて、重点的施策の展開を検討する。

さらに、転入時に配布している生活案内パンフレットの多言語化に加え、やさしい日本語による発信を行う。

現在行っている多文化共生サロンのプログラムについては、これまでの交流から日本語教育を中心にシフトすることで、外国人住民との共生地域づくりを推し進めていきたい。

予算・決算委員会（令和7年度補正予算審査）〔令和8年2月27日（金）〕

物価高騰対策として実施する教育・保育施設の給食副食費負担軽減事業について質疑がありました。

副食費は幼児教育・保育の無償化以降、物価高騰などの影響を受け、段階的に引き上げられており、国の公定価格は令和5年度が4千700円、令和6年度が4千800円、令和7年度が4千900円となっています。

本市では、令和8年度について補助および免除により保護者の負担軽減を図る考えが示されました。

一方で、この事業は物価高騰対策として実施する単年度の取り組みであり、令和9年度以降の副食費無償化などの支援については、現時点で予定していないとの答弁がありました。

また、家畜配合飼料価格高騰対策補助金についても質疑が行われました。

国や北海道の制度による支援状況を踏まえ、国の交付金を活用した畜産農家の負担軽減を図るための支援を行うものです。

補助は農業協同組合を通じ、家畜の頭数に応じて交付する仕組みとし、農家の申請手続きの負担軽減にも配慮するとの説明がありました。

今後については、飼料価格の動向を注視しながら、関係団体や畜産農家と意見交換を行い、必要な支援を検討していく考えが示されました。

（辻）

視察報告と議員報酬の在り方について意見交換しました

議会運営委員会は、2月10日に議場において、行政視察報告会および議長諮問に基づく議員報酬の在り方について意見交換会を開催しました。

行政視察報告会では、岩手県奥州市議会および宮城県白石市議会の視察で得られた先進事例として、政策サイクルの確立や議会主体の政策形成の仕組み、市民意見の収集と反映手法、議会改革の具体的な取り組み、定数削減による議会運営の手法などについて報告し、参加いただいた皆さまに共有しました。

意見交換会では、議員報酬の在り方について率直に意見を交わし、人口規模のみで判断すべきではないとの指摘や、理解醸成のための期間が必要との声など多様な意見が寄せられました。

今後、より多くの皆さまに参加いただくための周知方法や情報発信の重要性についても課題が示されました。

今後は、これらのご意見と視察で得た経験を踏まえ、市民参加の充実と透明性の高い議会運営を目指します。

（今野）



議会中継をスマートフォンなどで閲覧しませんか？

本会議や各委員会は、スマートフォンやパソコンからでもご覧いただけますので、是非ご覧ください。

発行：登別市議会／編集：広聴・公開委員会

国会・政府に7件の意見書を提出

意見書は、市政の発展に必要な事柄の実現を要請するために関係機関に提出するものです。

令和8年第1回定例会では、次の意見書を可決しました。詳しい内容は、市議会ウェブサイトでご覧いただけます。

いじめ対策の強化を求める意見書
チルドレン・ファースト実現に資する施策と子ども子育て予算の大幅な拡充を求める意見書
教員の働き方改革の加速化を求める意見書
公立学校給食の質向上と学校給食費の抜本的な負担軽減の拡充を求める意見書
災害対策の充実強化についての意見書
奨学金返済の負担軽減策を求める意見書
地域公共交通の維持・確保に向けた環境整備を求める意見書

みんなで応援、若者の夢、未来の登別を

登別市議会では、地域の若者を応援する取り組みである、地域未来共創プロジェクト（ミラプロ）の考えに賛同し、ミラプロ・ユニフォームデーに協力することとしました。本会議最終日にミラプロTシャツを着用し、まち全体で若者の挑戦を応援する気持ちを形にして発信しました。

この取り組みが若い世代にとって登別を身近に感じ、将来を考えるきっかけとなることを期待しています。未来につながる登別のまちづくりをこれからも大切にしてまいります。

（千田）

令和8年第2回定例会は
6月12日（金）から開催される予定です。

問い合わせ ☎9220 / ✉gikai@city.noboribetsu.lg.jp